

2022年4月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2022年3月 マンスリー レポート

集計企業数 50 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	61,772,472 万円	100.0%	102.3% (102.0%)	59,985,691 万円	100.2% (100.8%)
食 料 品	53,709,664 万円	86.9% (88.3%)	103.2% (102.9%)	51,836,611 万円	100.8% (101.4%)
農 産	8,312,090 万円	13.5% (13.2%)	112.1% (103.6%)	8,011,364 万円	103.8% (102.2%)
水 産	4,961,175 万円	8.0% (7.9%)	99.9% (100.0%)	4,790,852 万円	98.4% (98.5%)
畜 産	6,702,134 万円	10.8% (11.4%)	101.1% (102.8%)	6,472,609 万円	99.5% (101.2%)
惣 菜	6,668,485 万円	10.8% (10.9%)	107.0% (105.9%)	6,392,581 万円	104.9% (103.9%)
日配食品	11,884,096 万円	19.2% (19.6%)	101.1% (103.0%)	11,467,534 万円	99.5% (101.5%)
加工食品	15,181,684 万円	24.6% (25.3%)	101.0% (102.1%)	14,701,672 万円	99.7% (100.9%)
生活関連	3,563,103 万円	5.8% (5.6%)	99.4% (100.2%)	3,710,560 万円	98.7% (99.7%)
衣 料 品	1,373,039 万円	2.2% (1.6%)	95.0% (91.5%)	1,327,820 万円	96.1% (93.2%)
そ の 他	3,126,666 万円	5.1% (4.5%)	94.0% (93.3%)	3,110,700 万円	94.8% (94.3%)

② 数 値

全店総売上高	61,772,472 万円	店舗数	4,992 店舗
総売場面積	10,013,439.1 m ²	総従業員数	271,986 人

店舗平均月商	12,374.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,091.0円 (102.7%)
月間m ² 売上(前月)	6.2 万円 (5.8万円)	平均売場面積	2,005.9 m ²
月間坪売上(前月)	20.4 万円 (19.1万円)	パート比率(前月)	77.3% (76.7%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ◆ 天候について
 - ・ 気温
西日本と沖縄・奄美地方の気温はかなり高く、北日本、東日本で高かった
 - ・ 降水量
東日本の降水量は少なかった
 - ・ 日照時間
東日本の太平洋側と沖縄・奄美地方の日照時間は多かった
- ◆ 土日祝日の日数について
合計9日で、前年同月と比べて1日祝日が多かった
- ◆ 新型コロナウイルス関連
 - ・ まん延防止等重点措置は6日に13県で解除されたものの、18都道府県は21日まで延長された。1日あたりの全国新規感染者数は緩やかに減少したが、月末よりふたたび増加に転じた
- ◆ 商品動向全体
 - ・ まん延防止等重点措置が解除されても感染者数は高止まりの状態であることから客数は伸び悩んだとのコメントがみられた
 - ・ 生鮮相場が高い状況に加えて、一部商品の値上がりしているため、客単価が増加しているとのコメントがみられた

《 商品動向 》

○農産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 野菜全体では、月を通して前年に比べて高値で推移。特にたまねぎ、だいこん、キャベツ、レタスが高値であった。にんじん、じゃがいもは安値で推移した
 - ・ 国産果物ではりんごが前年に比べて高値で推移、いちごは安値で推移した。輸入果物はバナナ、パイナップル、オレンジを中心に前年に比べて全体的に高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ 相場環境の影響により、たまねぎやキャベツ、はくさいが好調であったが、きゅうり、にんじんは伸び悩んだ
 - ・ いちごは供給が安定したことで相場が落ち着き、好調であった
 - ・ 輸入果物が伸び悩んだとのコメントがみられた

○水産

- ◆ 商品動向
 - ・ かつおやかれいが好調であったが、まぐろは低調であった
 - ・ 刺身の盛り合わせが好調であった
 - ・ 魚卵は好調であったが、あさりをはじめとする貝類は低調であった

○畜産

◆ 相場状況（卸売価格）

- ・ 国産豚、鶏むね肉は、前年に比べて高値で推移した。和牛、鶏もも肉は安値で推移した

◆ 商品動向

- ・ 国産牛、和牛は好調であったが、輸入牛は低調であった
- ・ 豚肉は国産豚を中心に好調、鶏肉も好調であった
- ・ ひき肉は低調であった

○惣菜

- ・ 弁当類、寿司が好調であった
- ・ 天ぷらは好不調が分かれた

○日配食品

- ・ チルド麺、パン、デザート、冷凍食品が好調であった
- ・ アイスクリームやヨーグルト、練製品は伸び悩んだ

○加工食品

- ・ ペットボトルの飲料や調味料、即席麺が好調であった
- ・ 菓子はチョコレートやクッキービスケットを中心に好調であった
- ・ 米、酒類は低調であった

○ひなまつりの動向について

- ・ ちらし寿司が全体的に好調で、チャンスロスが生じたとのコメントもみられた
- ・ ケーキを中心とした洋菓子、ひなあられは好調であった

○ホワイトデーの動向について

- ・ 高単価品は好調であった
- ・ ダウントレンドであることから、展開期間や取り組み規模を縮小したとのコメントがみられた

○お彼岸の動向について

- ・ おはぎが好調であった
- ・ 天気が良かった地域では、お供え用の花が好調であった